

調査団報告書

調査No.36

調査内容

最近、名古屋土人形というものがあることを初めて知りました。なにか資料はありますか？

調査手順

お知りになったのが名古屋市博物館の「いつだって猫展」だったとのことで、図録を確認。まあなんて立派な名古屋土人形の招き猫！でもあまり説明はありません。土人形か、郷土玩具の本に何かあるかも…。あれ、本によって始まった時期の説明が違う？ どうしてなのかも調べなくては！

調査結果

まずは、名古屋土人形に関する資料をご紹介します。

『郷土玩具辞典』斎藤良輔／編 東京堂出版 1971 pp. 249-250「名古屋の土人形」の項。

もっとも詳しく書かれています。始まった時期は明治初年となっています。図版は白黒が一点。

『日本の土人形』俵有作／編 文化出版局 1978 pp. 141-142「名古屋土人形」の項。図版は白黒1点。

『全国郷土玩具ガイド2』畑野栄三／著 婦女界出版社 1992 pp. 228-229「廃絶した名古屋土人形と張り子」の項。

簡単な説明ですが明治初年説と明治以前説が併記されています。カラー図版で複数点紹介。

『天神さん人形』木村泰夫／著 日貿出版社 2000 pp. 107-110「名古屋土人形」の項。

明治以前説のみの説明ですが、天神人形については詳しい説明とカラー図版多数あり。

『愛知の土人形』名古屋市博物館／編集 名古屋市博物館 1994 pp. 12-17「名古屋の土人形」の項。

多数の図版（カラー白黒共）が載っています。

その他、『東海の郷土玩具』亀井鑛／著 中日出版社 1979

『いつだって猫展』名古屋市博物館 2015 などがあります。

さて、なぜ資料によって始まった時期の説明が違うのかと言いますと、名古屋土人形の始まりは、はっきりとはわからないけれども、明治初年の御器所七本松の伊藤友松によってではないかという説がかつては有力だったようです。しかし、昭和61年に古谷哲之輔氏が『郷玩文化』通巻53号で「安政6年(1859年)刊の大蔵永常著『広益国産考』に名古屋土人形の記述があり、明治以前にすでにあった」という説を発表したために、資料によって説明が違ってしまっているのですね。なんにしても明治末期から昭和初期までは何人かが作っていた名古屋土人形も、平成元年9月に最後の製作者野田末吉氏が他界して、残念ながら廃絶してしまったそうです。でも『広益国産考』に記述があるなんて名古屋の土人形は江戸時代から有名だったのですね。ほら、ここ「六之巻 雛并ニ近来所々ニ而作り出す話」に名古屋という地名が出てますよ。

